
研究紀要

第71集

目次

はじめに	吉川 一義	
研究概要 全体論	中前 元久	2

よりよい未来を志向する子の育成

— 決める授業をデザインする —

理論と実践

国語科	中山 典子・濱名 秀晃・清水 義之	8
社会科	西 勝也・井南 亮佑	22
算数科	石田 美保・服部 美雪・長谷川勝浩	32
理科	中前 元久・森田健太郎・岡部佐穂里	46
生活科	天満 弥生	60
音楽科	徳田 典子・西村真理子	66
図画工作科	齊藤江利子・中川 佑紀	76
家庭科	馳 裕紀子	86
体育科	島貫 由郷・山下 裕佳	92
道徳	太田ちはる	102
英語	乗富 智子	108
情報教育	福田 晃	114

おわりに	河村 真吾	
------	-------	--

はじめに

本校は、3年前に「考える子を育む」を主題として学校研究をすすめ、その成果を踏まえた発展として、今年度は「自らが決める（授業）」に焦点化した検討を始めました。

これまで、私たちは、みんなが一つの大きな船に乗っていました。この船が豊かな社会に向かうことでみんな幸せになりました。そして船は豊かな社会に着きました。ここからは、それぞれが小船に乗って各自の目的地に向かって漕ぎ始めなければなりません。目的地はそれぞれ違います。自身が決めるしかありません。目的地を決めるための試行錯誤が必要になりました。

このように今日、益々、各自に自己決定する力が求められています。しかし、この力は決定する機会が与えられれば、直ちに発揮できるものではありません。未成熟な児童にあつては、自己決定する機会を通して、自己決定とはどうすることなのかを学んでいかなければならないですし、教育は、この過程にかかわってこれを高めることを支えなければならぬと考えます。

この視座から授業に目を転ずれば、このテーマはこれまでの授業において試行錯誤しながら考え・学ぶための主導権をどれほどに子どもたちに渡してきたのか？への問い直しでもあります。

子どもも含めて、私たちは生活事象に出合って何らかの意味を取り出し、この意味に従って行動します。そして、取り出した意味はそれまでの生活履歴から得てきた知識に依存します。したがって、知識内容によっては、同じ事象に出会っても個々が得る意味には違いが生じ、結果として判断・行動に作用します。知識の得方として、我々は一般化された情報の形で知識を受け取り（知る）使う、あるいは、経験から得てきた知識（知っていたこと）を通して事象にかかわり、その結果のうちの気付いたことにもとづき「知っていたこと」に修正・更新を加えて「わかる」状態に至ると思われまふ。この過程で、他者との交流による試行錯誤は判断に多様さを与えて結果から知りうることを発展させるだけでなく、「みんなは、こういうことを承認する」ことを知って自己の判断・行動に価値を与えます。この試行錯誤と承認する・される人間関係によって、生活世界に対する「自分にとっての意味と価値の世界」を再構成していくと思われまふ。

このような視座をもって本校研究の関心は、子ども達が「生活世界」の事象から学んで、事象に対する「自分にとっての意味・価値の世界（内面）」を再構成すること。そして、再構成した意味・価値をもって生活世界で行動すること。この往還による「育ち」の捕捉にあります。これら各次元での相互作用と両次元間の往還の実体を子どもの具体の言動から可視化し、良循環へと導くための教師による意図的な介入について明らかにすることを目指しています。

どうか、皆様には忌憚のないご批判、ご意見、ご教示を賜りたいと思います。それを踏まえて、本校教育の次への発展に向けた努力を重ねて参りたいと考えています。

最後に、本校の研究を支えてくださる多くの皆様に心より感謝申し上げ、今後とも変わらぬご支援とご教示を賜りますことをお願いして、巻頭の言葉といたします。

平成29年11月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 校長 吉川 一義